president, owner, director, boss, leader, captain.....

マスターズー

日本経済の未来を創る経営者たち

2018. 8 August Vol.36 No.443

特別取材企画

地域に生きる

企業は人なり~その人物像を探る 技を極めた匠 健やかな日々を支える医療 心に寄り添う介護・福祉 EXPERT'S EYE 明日を照らす教育現場 社寺聴聞

巻頭特集

スポーツ界で起きるイノベーションスポーツ×ICTの今

0000000

000000

00000

Current Topics/Column

- ●今の時代に求められる人材マネジメント アウトソーシングの戦略的活用
 - ●ビジネス成長の強い味方!! BTMを活用せよ!
 - ●個人事業者は損をしている? 法人化のすゝめ

イタリア共和国首相 ジュセッペ・コンテ



有飯盛商店 代表取締役

飯島宗久

人の営みのあるところには、必ず廃棄物やゴミが出る。 同様に、事業活動が行われる限り、産業廃棄物も生み出され続けるだろう。 だからこそ産廃業者はこれまでも、これからも社会に欠かせない存在だ。 横浜市に拠点を置く「飯盛商店」は、そんな産廃業者として東日本で幅広く活躍している。 さらに今年6月からは、新たに放課後等デイサービス事業もスタートし、 今後さらなる障がい者福祉事業の展開を見据えている。 産廃事業と障がい者福祉事業――異なる二事業に共通するのは、 飯島社長の胸にある「未来の子どもたちのために」という想いだ。

「未来の子どもたちのために― 誰もが生きやすい社会を目指しています」

(対談記事は90~91 頁に掲載)

人と環境に優しい社会を目指して 躍進続ける産廃業のエキスパート

「美しい地球を未来の子どもたちに」というスローガンを掲げ、産業廃棄物収集運搬・中間処理事業を手掛ける『飯盛商店』。東日本各地で優良評価を獲得し、「ISO14001」の認証も取得するなど、活躍を続けてきた同社は今年、設立50周年の節目を迎えた。そんな同社をタレントの布川敏和氏が訪問。躍進の秘訣に迫るべく、二代目・飯島社長にお話を伺った。

│ 社会のニーズに応えながら │ 産廃業者として確たる基盤を築く

一個社は今年、設立50周年を迎えるということで、おめでとうございます! ありがとうございます。当社は元々、私の父が鉄屑や銅屑を扱うスクラップ屋として創業しました。私が入社したのは今から30年前で、当時は父と事務員さんしかいない小さな会社でした。そのうちリサイクルが重視される社会に変わっていき、当社も産業廃棄物の収集運搬と

中間処理を行うように。それからは変圧 器やモーターなど電気設備関係の産廃を 主に扱い、事業を拡大してきました。

――産廃処理が重視されるようになった 時代の流れが、御社の追い風になったと。

そうですね。私がこの仕事を始めたころは「汚い」などのネガティブなイメージが根強く、業界としての社会的地位は低かったです。しかし、地球環境への配慮が重視されるようになってから、業界を取り巻く空気も変わってきました。業務が大きく変わったわけではないのです

が、時代が私たちを押し上げてくれた感 覚がありますね。

――そして現在は、幅広い地域で産廃業 者としての優良評価を得られています。

スクラップ業では下請け業者さんとや り取りをしていたのですが、産廃業の場合は大手の元請けさんとの直接契約になりました。その分、より信用が大事になりますから、行政の優良評価をはじめ、第三者からの評価を得ることに力を入れていったのです。それが、元請けさんからの信用にもつながると考えました。



代表取締役

飯島 宗久

神奈川県横浜市出身。学業修了後から、父親が経営する『飯盛商店』に入社。その後、産業廃棄物の収集運搬・中間処理業への着手を主導した。以来、他社とは一線を画する適正処理・適正価格の姿勢を貫き続け、各行政の優良評価や「ISO14001」の取得など、数々の実績を積み重ねている。2013年には代替わりを果たし、社長職に就任。

環境マネジメントシステム ISO14001 認証取得



有限会社 飯盛商店

神奈川県横浜市金沢区鳥浜町 12-14 URL: http://www.iimori.co.jp





社会貢献を念頭に東日本で事業を拡大

厳しい基準をクリアした、優良な産廃処理業者のみを行 政が認定する「優良産廃処理業者認定制度」。「飯盛商店」 はその認定を、関東の1都7県、さらには中部地方の山梨・ 静岡・群馬、そして東北地方の福島・宮城でも取得している。 また、東京においては都が独自に認定する優良評価「産廃 エキスパート」にも認定されており、その他に「ISO14001」 の認証も取得。その優良性は様々な第三者機関の認めると ころであり、その確固たる評価を背景に、同社は東日本に 広く活躍の場を展開している。

同社が福島・宮城で産廃処理の許認可を取得したのは、 東日本大震災後。すぐにでも現地に行って何か力になれれ ば――その一心での取得だった。結局、震災による廃棄物 は「災害廃棄物」という区分となり、事業として復興支援 に携わることはできなかったが、必要とされれば駆け付け られるよう、迅速に体制を整えたのは、飯島社長の社会貢 献への強い想いを物語るエピソードだろう。

今後は障がい者福祉にも力を注いでいく。産廃業に留ま らない、社長の社会貢献活動にも期待を寄せたい。

――大手と取引ができるというのは、経 営を安定させる上でも大きいですよね。

ええ。まだ一般の方にとっては、「ゴ ミにお金を掛ける」ということに抵抗が あるのも事実でしょう。しかし、きっち りと処理・リサイクルするためには、そ れ相応の費用が掛かるもの。当社として も、安く処理することより、環境に負荷 を掛けないことを第一に、きっちりと処 理・リサイクルすることを重視してきま した。大手さんはそこを理解し、「適正 価格で、きっちり処理してほしい」と言っ て下さいます。それはありがたいことだ と思いますね。

社会へのさらなる貢献を目指し 障がい者福祉に参入

一産廃業者としての、御社の強みはど こにあるとお考えですか。

設備関係の処理に特化したこと、中で も「SF6」や「PCB」、あるいは油といっ た処理困難物に特化してきたことでしょ うか。また、元々スクラップ屋だった経 験を活かし、当社では廃棄物に含まれる 金属などの有価物を買い取るスタイルを 採っているんですよ。「廃棄物はお客様 の物」という考えから、一緒くたに処理 するのではなく、内容をしっかりと見極 めています。そのため物によっては、格 安で処理できることもありますし、処理 費より有価物の買取価格が上回り、当社 からお支払いする場合もあるんです。

――それは取引先としても嬉しいでしょ うね。大手から厚い信頼が寄せられるの も納得です。

隠し事なく全てを詳らかにするという のは、経営状況に対しても同様です。こ れまで真面目に、堅実に経営をしてき たという自負がありますから、当社の Webサイトでは財務諸表も公開してい るんですよ。当社のように小さな会社で 公開する例は多くないですし、最初は抵 抗もありましたが。また、これはあまり 情報発信してきませんでしたが、これま でには青年会議所やロータリークラブな どの団体を通じ、地域活動・奉仕活動も 積極的に行ってきました。

――いかに誠実な経営をされてきたか、 自社の利益だけでなく社会のために貢献 されてきたかが分かるお話です。

そして今年6月からは新たに、放課後 等デイサービス事業を始めました。当社 では以前から、有価物の分解作業を障が い者施設に委託しており、「良い経験にな る」と喜んでいただいていました。そこ

から福祉事業に発展させようと、10年ほ ど前から産廃処理と障がい者福祉を掛け 合わせる事業を試みてきたのです。それ には法律上の問題があったので、横浜市 と共同で新たなビジネスモデルを構想し、 内閣府の国家戦略特区に申請しました。 そちらは結局、許可が降りませんでした が、それでも実現に向け、その第一歩と して、放課後等デイサービス事業を始め ることにしたのです。

─では、福祉事業は今後どのように展 開されていこうと?

放課後等デイサービスは18歳までを対 象としたサービスです。しかし、障がい を抱える方々にとって最も大切になるの は、大人になってからどう生活していく か。だからこそ、将来的には放課後等デ イサービスを卒業した方々を社員として 迎え、当社の工場の一つを彼らが働ける 場にできればと考えています。障がい者 と廃棄物処理業はどちらも、世間からの 偏見を受けやすい存在だと思います。だ からこそ、その二つを掛け合わせ、社会 の中にうまく組み込んでいきたいですね。 ――障がい者雇用の新たなモデルケース ともなり得る、素晴らしい活動だと思い

ます。私も応援させていただきますね!

(取材/2018年4月)



After the Interview 布川 敏和

「産廃業では地球の環境保全、放課後等デイサービス 事業では日本における障がい者福祉の充実――そんな 大きな目標に向け、その一翼を担うという志を胸に事 業を牽引されている飯島社長。企業は社会の公器で ある」という言葉がありますが、まさに社長の経営観 はそれを体現していると感じました。今後のさらなる ご活躍を期待しております!」

